



広報

くにもと

Dec 2024

No. 87

【編集・発行】国本地区づくり振興会

国本地区体育祭

10/6

【場 所】国本中学校校庭
【主 催】国本地区スポーツ協会
【参加者】約200名

コロナ禍でお休みしていた体育祭を5年ぶりに開催することができました。

久しぶりの開催に、役員は記憶を呼び起こし会議を重ね、各部体育部長さんにもお骨折りをいただき、国本地区全体を巻き込んだスポーツ協会の一大イベントを実施することができました。

国中吹奏楽部の演奏で開会式が始まり、びん釣り・麦畑・輪投げとりリレー種目等が続き、休憩時には、西小鼓笛隊・中央小南中ソーランが披露されました。KLCの協力で、かけっこ玉入れには大勢の子どもたちが参加、元気な国本っ子がこんなにいるとワクワクさせられました。部対抗リレーでは、一生懸命に走る姿に感動をもらいました。協力し合い助け合い競い合い楽しい時を過ごしていただけたと思います。



国本地区まちづくり懇談会

10/9

PM6:30~

【場 所】国本地区市民センター
【主 催】国本地区づくり振興会・宇都宮市
【参加者】57名

【地域代表意見：2件】

- ①住みよい国本地区の実現と活性化をめざして
- ②青少年スポーツのあり方と地域指導者の確保・育成について

【自由討議：7件】

- ③教育環境の整備について（中学生意見）
- ④路線バスの増便とLRTの国本地区への拡大について
- ⑤図書館の建設について
- ⑥プラスチックごみのリサイクルについて
- ⑦視覚障がい者への外出支援について
- ⑧スケートボードパークの建設について（中学生意見）
- ⑨道路沿いの雑草の繁茂の対応について

※意見及び回答の詳細については市のホームページをご覧ください。



多くの地区住民が参加し、国本地区まちづくり懇談会が開催されました。地域代表意見と自由討議、合わせて9件の意見が出されました。特に自由討議では中学生からの意見も出され、市長を交えて活発な意見交換がなされました。

地域ビジョンで掲げる「明るく活気あふれ住みよい国本地区をめざして」の実現に向け、大変有意義な懇談会となりました。



くにもとまつり — 文化祭・農業祭 —

11月9日 11月10日
[場 所] 国本地区市民センター
[主 催] くにもとまつり運営委員会



今年の「くにもとまつり」は、2日目の天候が心配されましたが、大変多くの来場者で賑わい、盛大に開催することができました。

文化祭では、地区内小中学校や各サークルによる作品展示、ステージ発表などに加え、スタンプラリーならびに「宮PASS」特典による抽選会、地域団体の活動PRなど、さまざまな催しが行われました。

農業祭では、朝からのお囃子演奏で盛り上がるなか、新鮮な野菜の直売や模擬店で地域のおいしい農産物などを味わっていただくことができました。

また、今回新たな催しとして、地元のクロサキ工芸さんのご協力をいただき「丸太挽（ひ）き」とスポーツ協会主催による「スケートボード」の各体験コーナーを設け、多くの方の参加をいただきました。

地区で最大のイベントである「くにもとまつり」は、地域の食や文化などの魅力を再認識し、住民同士の絆を深めあうことができるなど、地域が一体となって楽しめる大変有意義な催しとなりました。



10倍楽しむ国本塾 ～みや遺産と地域資源から見る 国本地区の魅力～

9月21日 10月26日
[場 所] 国本生涯学習センター
国本地区内
[主 催] 国本生涯学習センター
[共 催] 国本地区づくり振興会
[参加者] 各回20名程度



今年度の「10倍楽しむ国本塾」では、6月・7月に座学で学んだあと、9月に「悟理道の神輿」「仁良塚の彫刻屋台」「東大堀の伝統行事『辻切り』」

「神郷地区の薬師堂の伝統行事」「岩本観音」などの「みや遺産」を中心に、宇都宮市文化財調査員の川村泰一さんの説明を受けながら現地学習を行いました。

また、10月には「宇都宮初！国産ワインが醸造されるまで」と題し、宇都宮市内でぶどうを栽培し、ワインを醸造している「ヒノエワイナリー」代表の吉村潔さんから話を聞き、ぶどう畑や醸造所を見学することができました。

身近で貴重な文化財や地域資源を知ること、国本地区の魅力を再発見し、郷土を愛することができる素晴らしい講座となりました。



↑東大堀の伝統行事『辻切り』

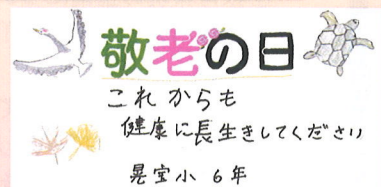
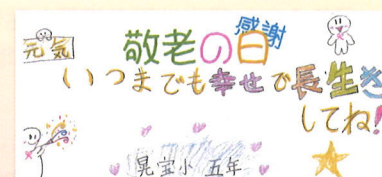
健康と長寿を祝うメッセージ

多年にわたり社会に貢献してきた高齢者を敬愛し長寿をお祝いする敬老の日。今年は地区内の75歳以上の対象者が2,107名。100歳以上の方々は5名で最高齢は103歳でした。

皆様には、お祝いの記念品と児宝小学校5・6年生の児童によるメッセージカードが、自治会による手配りと郵送にて届けられました。『これからも健康に長生きしてください』と児童。高齢者からは『できる限り自分のことは自分で、長生きできるように頑張りたいと思います。感謝申し上げます』とはがきが届き、心あたたまる交流となりました。

国本地区でも年々高齢者は増加傾向にあります。地域の方々が高齢者の福祉について関心と理解を深めることにつながる日となりますように。

9月12日
[主 催] 国本地区社会福祉協議会
[参加者] 国本地区 対象敬老者 2,107名



自治会役員研修

8月3日 10月12日
[場 所] 国本地区市民センター ホール
[主 催] 国本地区自治会連合会
[講 師] 「NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク」
岩井代表理事
[参加者] ①17自治会（21名）②13自治会（18名）

第2回は、「地域や自治会をこれからどうしていきたいか」をテーマに、講義では、課題だけを捉えて解決しようとししないで、まずは理想や願いをみんなで考え、実現にあたっては自分たちだけで解決しようとししないで大学生や民間など外部の力を活用することがポイントであることなどを学ぶことができました。

後半の意見発表では、若者が地元に住みやすいまち、空き蔵を活用したカフェなど癒される場所が欲しい、高齢者が活躍できるまち、人にやさしいまち、地域の総意をまとめる自治会に多くの人が関われるまちにしたいなど、参加者が熱い想いを共有できた有意義な時間となりました。

第3回は、「自治会に人が集まるための仕掛けと未加入者への情報発信」をテーマに、参加者は4班に分かれ、アイデアを出し合いました。「楽しいことをやれば人が集まる」をキーワードに、空き家の活用、高齢者と子どもの交流、他自治会への情報発信と交流、国本地区の農作物を生かしたイベントの実施、高齢者が培ってきた手仕事の若者への伝承など、また、自治会未加入者へ情報発信では、自治会活動の良さを知ってもらうチラシのポスティングなどの地道な働きかけ、回覧板のデジタル化、地区ホームページの作成など新たな媒体の活用の提案がありました。加えて、未加入者に自治会が頑張っている、つながりの場、防犯灯やごみステーションの維持管理など、もっと自治会と行政が協力してアピールしていこうとの切実な思いも語られ、あっという間に2時間が経過し、充実した研修となりました。



環境部会の リサイクル施設見学

9月12日
[場 所] ㈱関東エコリサイクル（栃木市大平町富田800）
㈱アクトリーR&Dセンター（壬生町大字壬生）
[主 催] 国本地区づくり振興会環境部会
[参加者] 15名（環境部会員・国本地区リサイクル推進委員・国本地区自治会長）



今回の施設見学は家電リサイクル法対策4製品（エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機）及び産業廃棄物の再生処理を行う「㈱関東エコリサイクル」と、焼却施設から得られるエネルギーの有効活用（熱エネルギーから電気を作り、実際に壬生町の13,000世帯の電力を供給しているそうです）と再生油の製造販売を行っている「㈱アクトリーR&Dセンター」の2施設を見学しました。地域における資源有効活用によるインフラ（社会、生活、産業の基盤）の下支えがますます重要になってくるこれからの時代、見学者からは時代の現状を知るのに勉強になったという声が続きました。毎年行われているこの催しに、多くの方の参加を望みたいと思います。



野沢長寿会 県老連 「輪投げ大会」への 参加報告

10月23日
[場 所] 県総合運動公園多目的広場
[主 催] 県老人クラブ連合会

10月23日に県総合運動公園多目的広場で県老人クラブ連合会スポーツ大会「輪投げ大会」が行われ、野沢長寿会からは龍福勝康さん、龍福登美子さん、西園逸雄さん、北見直史さん、藤野テルさんの5名が参加しました。昨年は56チーム中9位で個人の部では龍福登美子さんが優勝するという好成績をあげましたが、今年は52チーム中32位、個人の部での2連覇は残念ながら逸しました。チーム全員気を取り直して来年の雪辱をめざしておりますが、我と思わん方の参加も歓迎しますのでよろしくお願いします。



国本地区市民センターからの
お知らせ



お気軽にご相談ください

事前申込不要

デジタルのわからないこと お手伝いします！
「デジタル活用支援窓口」の開設

●開催日／毎週木曜日 午前9時～午後1時
（令和7年3月まで開催）
●開催場所／国本地区市民センター ロビー

●内 容／・スマートフォンの基本的な操作
・宇都宮市公式LINE「教えてミヤリー」の登録
・マイナンバーカードと健康保険証の紐づけなど

●担当課／
宇都宮市デジタル政策課
TEL 028-632-2786

令和6年度 くにもと生き生き教室【防災講座】 国本地区防災マップを用いたDIG

8
土
31
AM10:00~

【場 所】 国本地区市民センター
【主 催】 国本生涯学習センター・国本地区づくり振興会
【参加者】 30名（自治会長・各種団体長・避難所運営ボランティア・一般参加者）



昨年度改訂した国本地区防災マップを用いた DIG（災害図上訓練）を栃木県防災士会の引地氏を講師に迎え行いました。

まず、地図上に自宅、河川、道路、病院、学校などを落とし込み、次に防災マップから土砂災害警戒区域や浸水想定区域などを色分けしマッピングしました。そうすることで、自宅周辺の災害リスクを知り、災害時の対応を考えることができました。みんなで、安全な避難経路はどこか、被害を防ぐにはどうしたらよいかなどを話し合い、防災への意識が高まる講座となりました。

歩け歩け大会 in 筑波山トレッキング

10
日
27

【場 所】 茨城県 筑波山
【主 催】 国本地区スポーツ協会
【参加者】 62名



今回の歩け歩け大会は筑波山に行ってきました。幼児から80代と幅広い年齢層の方に参加していただきました。

ロープウェイで女体山駅まで上がり、御幸ヶ原で昼食休憩、眺望を楽しむはずがあいにくの曇り空で視界良好とは言えませんでした。山を渡る風に清々しさを感じられました。男体山の自然研究路を一時間ほどかけて歩きました。アップダウンあり、岩場ありと変化に富んだ道に山登りをした達成感がありました。ケーブルカーで山を下り、筑波山神社へお参りし、無事に国本へと帰ってきました。次回も楽しい企画を用意して、皆様の参加をお待ちしています。

国本の歴史と文化

第十話 仁良塚の地名の由来 「大日山と神明山」

かつての仁良塚村は、寛文10年（1670）都賀郡藤岡村から西原台地に入植して開拓された西原新田十村の一村でした。

入植当初の村には村名は無く、藤岡出組・長左衛門組などと呼ばれておりました。延宝3年（1675）4月頃になり長左衛門が仁良塚の庄屋となり、村落の形態が整い仁良塚村が誕生しました。

仁良塚村の地名の由来は、新里街道筋の西側に大谷石が露出する丘陵で北側に「大日山」、大日山の南西約100mの位置に「明神山」と呼ばれる山があり、小高い「二つの良い山（塚）」から村名「仁良塚」と



↑大日山の石祠



←明神山
大日山

名付けられたと伝えられております。

「大日山」には祭神「天照大御神」が、「明神山」にはかつて六所大明神が鎮座しておりました。（明神山の六所神社は明治40年（1907）宝国神社へ遷座される）

入植した西原台地は、雑木や草木が生い茂る荒地で、開拓は血のにじむ苦労を重ねながらの工事でした。そんな折、村の西側にある「大日山」と「明神山」を眺め、手を合わせて一日の無事に感謝し心のよりどころとなったものと思われます。

令和6年12月

国本の歴史と文化探訪 川村泰一

国本地区データ



総世帯数 6,463世帯
(対前年度末増減 +38世帯)

総人口 14,976人
(対前年度末増減 -12人)

〔男 7,435人 女 7,541人〕

(令和6年11月末日現在)

国本地区自治会連合会からのお知らせ

持っていますか「宮パス」?

(自治会加入者の福利厚生制度)

- ・サービス提供施設で提示することで優待利用（割引や特典）が受けられます。
- ・お持ちでない方は、自治会長へお問い合わせください。

自治会会員の優待制度
宮PASS
300円